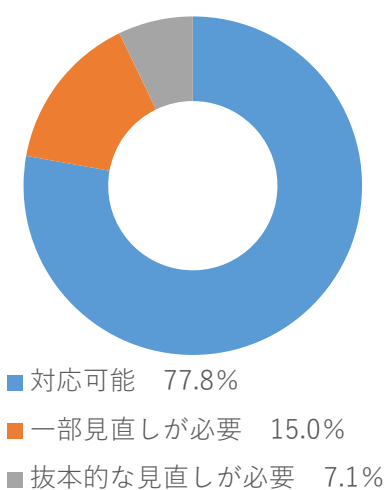


年内入試面接必須化へ。約8割の私立大学が対応可能、約2割は一部あるいは抜本的な見直しが必要と回答

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：牛田 圭一）が運営する『リクルート進学総研』（所長：小林 浩）では、年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜〈公募制〉）における面接試験の実施状況と、面接必須化に対する私立大学の意向を明らかにするため調査を実施いたしました。このたび266校の調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。

Q.総合型選抜、学校推薦型選抜（公募制）の面接必須化に対して、現在の人員や試験の実施方法での対応は可能かどうか教えてください。（単一回答、n=266）



大学所在地 (%)	北海道 東北	関東 甲信越	東海 北陸	関西	中国 四国 九州	全体
対応可能	100.0	91.1	70.5	52.5	70.0	77.8
一部見直しが必要	0.0	6.9	25.0	28.8	16.7	15.0
抜本的な見直しが必要	0.0	2.0	4.5	18.6	13.3	7.1
n	32	101	44	59	30	266

入学者規模 (%)	200人未満	200人以上 500人未満	500人以上 1,000人未満	1,000人以上 1,800人未満	1,800人以上	全体
対応可能	94.3	81.9	73.5	57.5	53.1	77.8
一部見直しが必要	4.5	15.3	20.6	25.0	25.0	15.0
抜本的な見直しが必要	1.1	2.8	5.9	17.5	21.9	7.1
n	88	72	34	40	32	266

■解説：面接必須化への対応は、大学所在地、入学者規模により傾向が異なる

今回の調査では、総合型選抜で約8割、学校推薦型選抜（公募制）でも約6割の私立大学が全受験者に面接を実施していることが確認されました。年内入試の志願者が拡大する中、令和9年度大学入学者選抜実施要項において、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する各選抜の趣旨に鑑み、面接による評価の徹底（必須化）が決定（※遅くとも令和11年度大学入学者選抜までに導入）。本アンケートからは、1人あたり10～20分程度の面接時間がかかっていることや、「面接官の人員不足」「評価のばらつき」「教職員の負担増」といった面接試験における運営上の課題が存在することが分かりました。その中でも約8割の大学が「現体制で対応可能」と回答した背景には、各校における入試運営の工夫がうかがえます。一方で、約2割の大学が「一部見直し」または「抜本的な見直し」が必要と回答しており、受け止め方の差も見られます。

面接必須化への対応は「大学所在地」および「入学者規模」によって大きく異なります。北海道・東北（対応可能100%）や関東・甲信越（同91.1%）では、ほぼ全ての大学が現状の体制で対応可能としている一方、入学者1,000人以上の大学では40%以上が一部あるいは抜本的な見直しが必要と回答しています。今後の対応策としては、面接官の人数確保や実施プロセスのオンライン化・効率化といった運営の再構築が必要になるでしょう。



『リクルート進学総研』
所長 小林 浩

※調査データの引用をご希望される際は、“「年内入試に関するアンケート2026」リクルート進学総研調べ”と明記いただき、弊社までご一報いただけますと幸いです。

本件に関する
お問い合わせ先

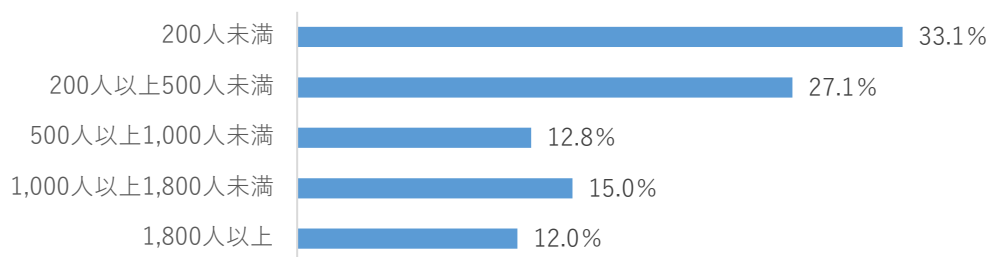
株式会社リクルート リクルート進学総研 <https://souken.shingakunet.com/>
※報道関連・マスメディアの方は[こちら](#)よりお問い合わせください。

調査概要

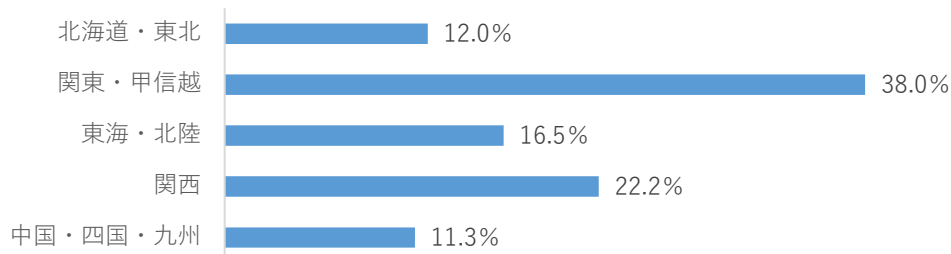
- **調査目的** 2027年度入試からの「総合型選抜および学校推薦型選抜（公募制）における面接試験の必須化」に伴い、各大学・短期大学では運用体制の整備などの対応が想定される。本調査は、私立の大学・短期大学を対象に年内入試の実施状況や今後の方針を伺い、年内入試における面接の実態を把握することを目的とする。
- **調査対象** 全国の私立大学・短期大学の入試関連部署
- **調査期間** 2026年7月6日（月）～8月7日（金）
- **調査方法** インターネット調査 ※対象学校に調査への協力を依頼し、回答を得た
- **有効回答数** 266件（大学228件、短期大学38件）

回答者属性

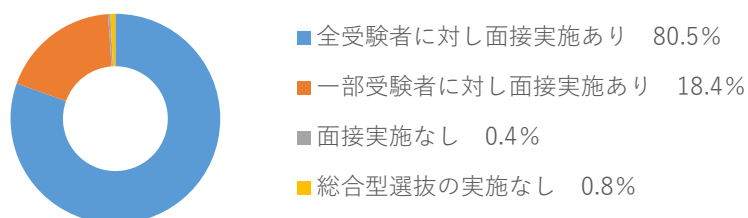
■ 2026年4月の入学者規模（単一回答、n=266）



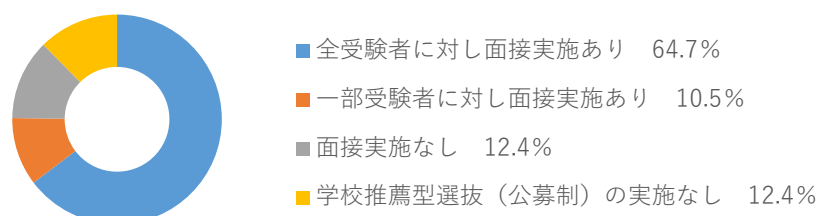
■ 大学所在地（単一回答、n=266）



■ 総合型選抜における面接の実施状況（単一回答、n=266）



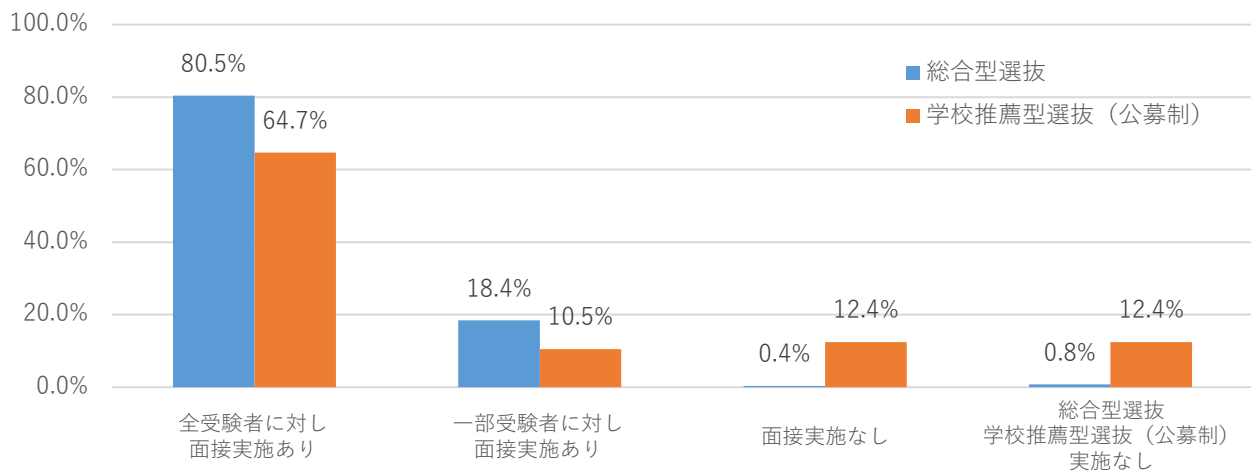
■ 学校推薦型選抜（公募制）における面接の実施状況（単一回答、n=266）



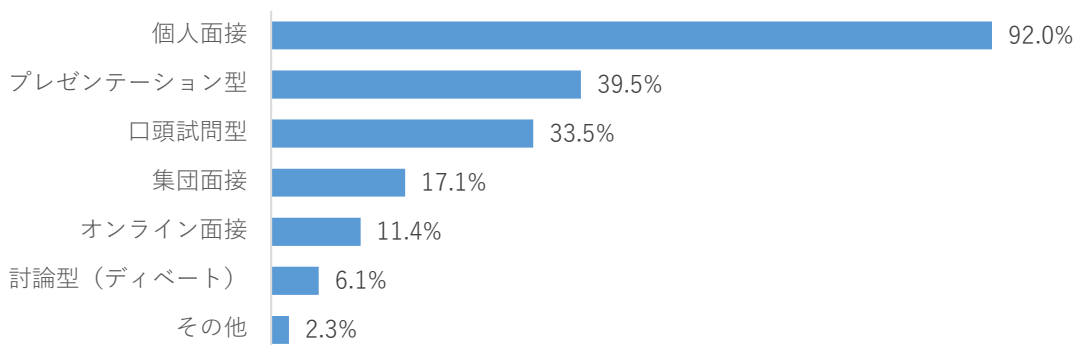
年内入試における面接の実施状況と実施形態①

1. 総合型選抜では80.5%、学校推薦型選抜（公募制）でも64.7%が「全受験者に面接を実施」。一方、「面接実施なし」「選抜自体なし」を合わせた割合は、総合型選抜の1.2%に対して、学校推薦型選抜（公募制）では24.8%と、選抜区分による差が大きい。
2. 総合型選抜における面接の実施形態は「個人面接」（92.0%）が最も高く、次いで「プレゼンテーション型」（39.5%）、「口頭試問型」（33.5%）と続く。
3. 学校推薦型選抜（公募制）における面接の実施形態は総合型選抜同様「個人面接」（87.0%）が最も高く、次いで「口頭試問型」（23.0%）、「集団面接」（18.5%）と続く。

1. 面接の実施状況（単一回答、n = 266）

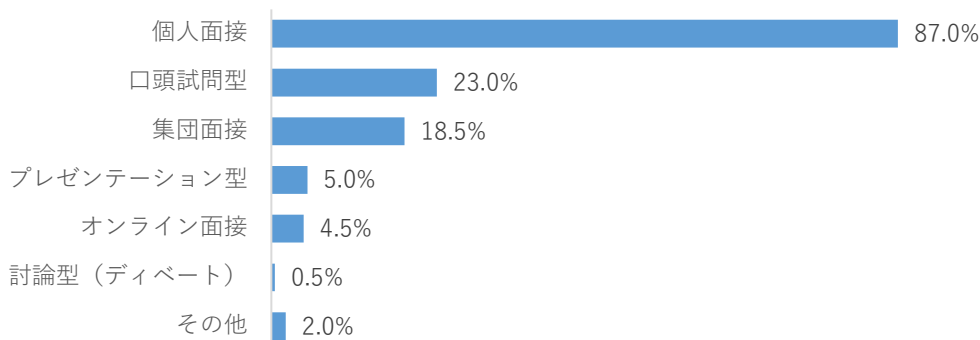


2. 総合型選抜における面接の実施形態（複数回答、n = 263）



※その他の詳細：自己PR型、対話型 等

3. 学校推薦型選抜（公募制）における面接の実施形態（複数回答、n = 200）

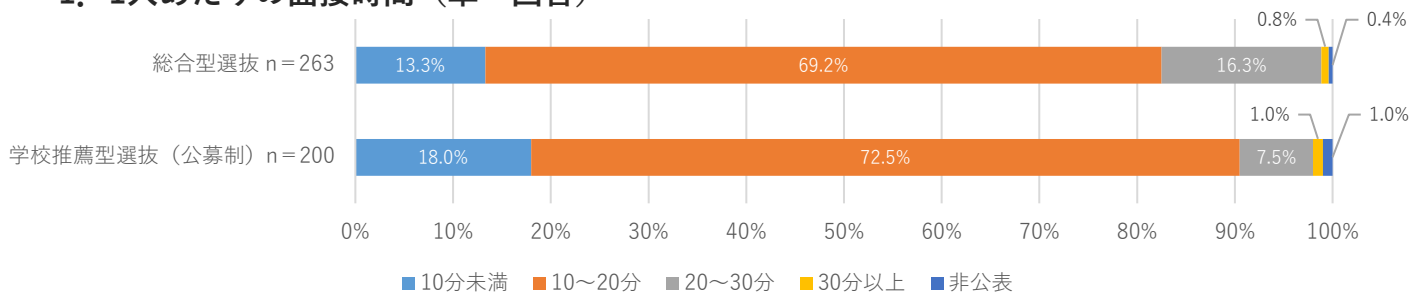


※その他の詳細：録画型、作品持参型 等

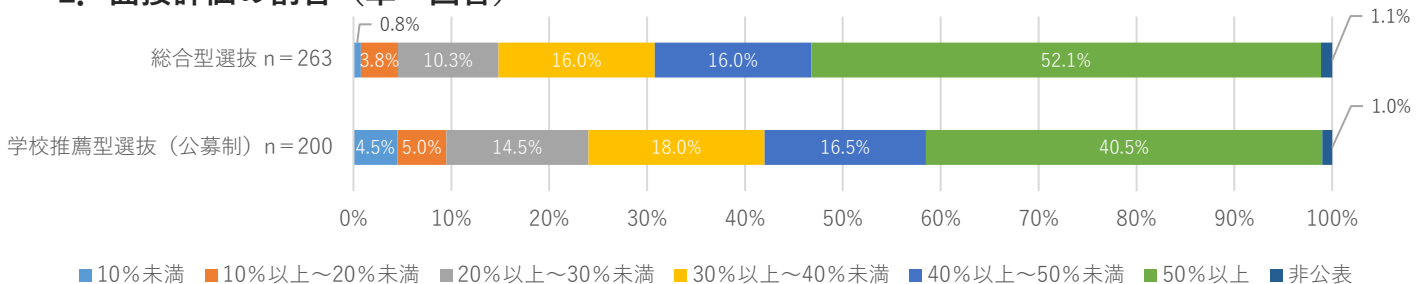
年内入試における面接の実施状況と実施形態②

- 1人あたりの面接時間は、「10～20分」が最も高く、総合型選抜で69.2%、学校推薦型選抜（公募制）で72.5%となった。
- 年内入試における面接評価の割合は、「50%以上」が最も高く、総合型選抜で52.1%、学校推薦型選抜（公募制）で40.5%となった。
- 総合型選抜の面接で評価している観点は、「志望理由の明確さ」（86.7%）が最も高く、「学習意欲」（85.6%）、「思考力・判断力・表現力」（82.1%）と続く。
- 学校推薦型選抜（公募制）の面接で評価している観点は、「思考力・判断力・表現力」（86.5%）が最も高く、「志望理由の明確さ」「学習意欲」がいずれも86.0%で続き、TOP3は総合型選抜と同じ項目だった。

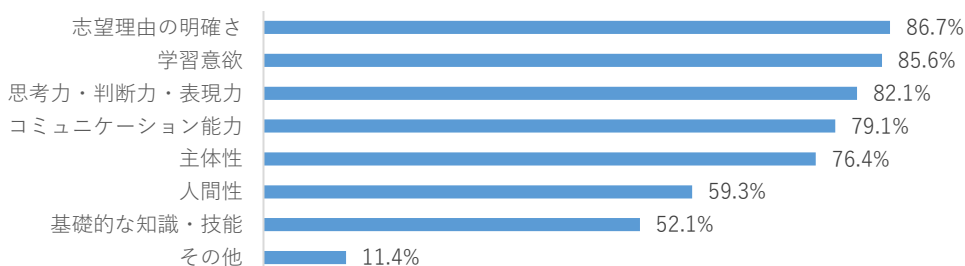
1. 1人あたりの面接時間（単一回答）



2. 面接評価の割合（単一回答）

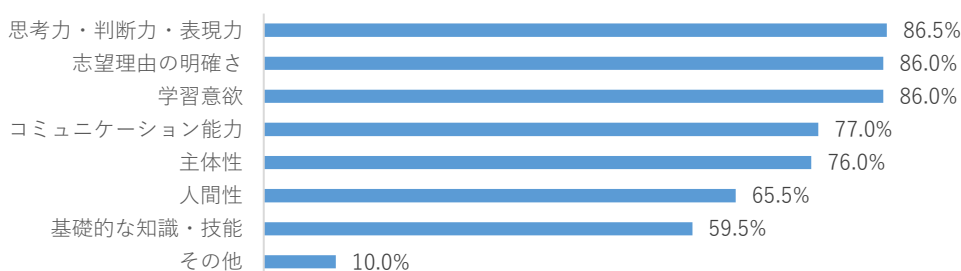


3. 総合型選抜の面接で評価している観点（複数回答、n=263）



※その他の詳細：アドミッションポリシーとの適合性、多様性、論理性、協働性、非公表等

4. 学校推薦型選抜（公募制）の面接で評価している観点（複数回答、n=200）

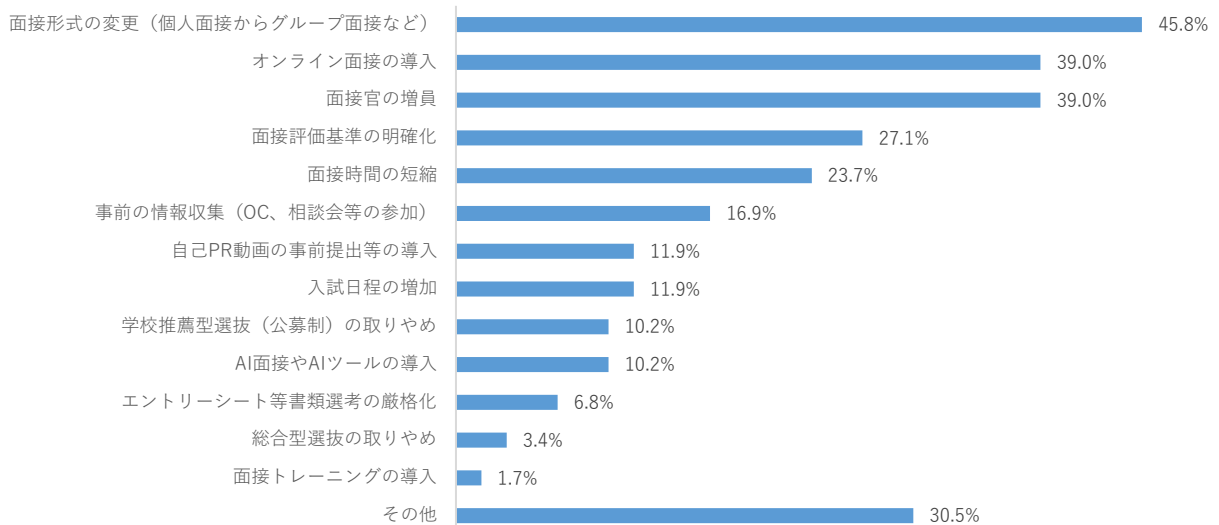


※その他の詳細：アドミッションポリシーとの適合性、積極性、社会性、非公表等

年内入試の面接必須化に向けた検討状況と課題

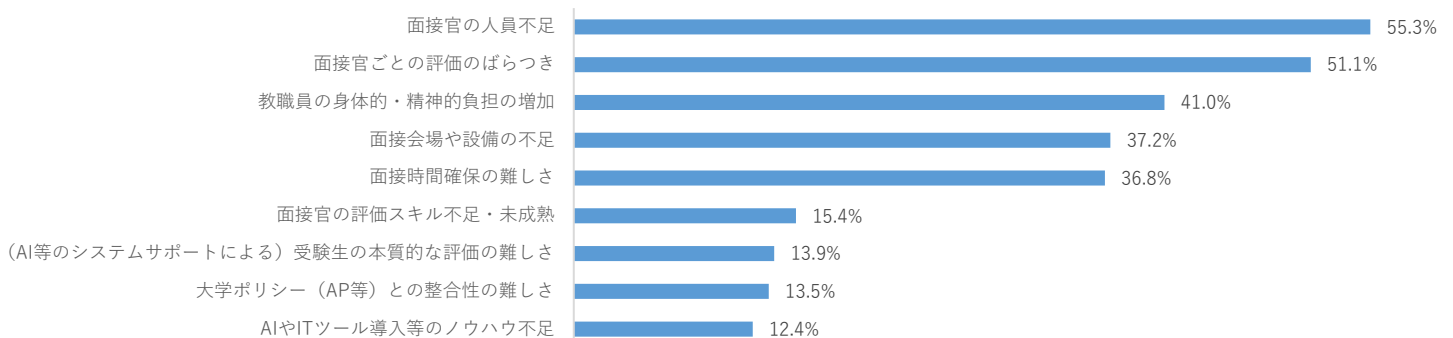
1. 年内入試の面接必須化に伴い「一部見直しが必要」「抜本的な見直しが必要」と回答した59校に、面接必須化に向けた今後の対応策を伺うと、「面接形式の変更（個人面接からグループ面接など）」（45.8%）が最も高く、「オンライン面接の導入」「面接官の増員」がいずれも39.0%で続く。「その他」の自由記述では、「検討中」「未定」が多く見られた。
2. 本アンケートに回答の全266校の面接試験の運営上の課題として捉えられているものは、「面接官の人員不足」（55.3%）が最も高く、「面接官ごとの評価のばらつき」（51.1%）、「教職員の身体的・精神的負担の増加」（41.0%）と続く。

1. 面接必須化に向けた今後の対応策（複数回答、n=59）



※その他の詳細：検討中、未定、入試日の時間割の変更等

2. 面接試験の運営上の課題（複数回答、n=266）



終わりに

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにいる、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ： <https://recruit-holdings.com/ja/>

リクルート： <https://www.recruit.co.jp/>